今日のイラスト 486　「 イラストでたどる萩往還㉝ 宮市本陣兄部家」　　古谷眞之助

いよいよ三田尻の街中に入ってきた。あと少しである。三田尻・宮市の本陣を務めた兄部家は焼失してしまうまでは確か萩往還沿いに残る唯一の本陣だったと記憶する。山口市内の本陣・山田家も脇本陣の安部家も現存しないから、大変貴重なものだった。それだけにビックリするとともに残念でならなかった。しかも、確かその時、何代目かのご当主も亡くなられたのではなかったか。記憶違いでなければ、なおのこと残念極まりない。

さて兄部家のことは本文を読んでいただくとして、少し唐突だが別のことを書く。一つは山口の脇本陣・安倍家のことを、そしてもう一つは宮市にあった写真館についてである。安部家には明治になって第二代山口県令・関口隆吉が住んでいた。どのような経緯で彼がそこに住むようになったかは定かではないが、伊藤、井上が三顧の礼を持って就任を要請したというから元脇本陣を務めた安部家宅を住まいとして用意したのではないか。そしてここで関口と後妻・静子の間に次男として生まれたのが、広辞苑の編纂者として名高い新村出である。彼は父の事故死後に慶喜の家臣、新村猛雄の養子となり新村を名乗った。山口県の旧県庁は現在、県政資料館として利用され、そこには歴代県知事の写真が掲げてあるが、関口の写真の下には、さりげなく広辞苑が置かれている。「出(いずる)」の名は、関口の前任地・山形と新任地・山口の「山」を二つ取って名付けられたという。つまり「山形でできて、山口で生まれた」からであると伝記にも書いてある。

もう一つ、宮市にあった写真館の主は「周防宮市・写真師・渡邊五洲」である。どの辺りにあったのかは分からないが、明治期に宮市にあったのは間違いない。どうして突然こんな名前が出て来るかと言うと、「航海遠略策」で名高い長井雅樂の妻「みさを」の写真の裏にそのように記してあるからである。この写真を私は不思議なご縁で長井雅樂のご子孫からいただくことになったのだが、長井に関する一文をまとめる際に、かなり調査したものの場所の特定はできなかった。長井家は維新後、防府毛利邸に住んだ元昭公に仕えている。長井を切腹に追い込んだのは松陰門下・久坂玄瑞であり、その妻が松陰の妹・文である。実は「みさを」と文(のち美和)は明治になって「萩婦人会修善女学校」を作った真宗婦人会の副会長を共に務めている。この学校の校長は松陰の兄・杉民治である。また「みさを」の長女・貞子は毛利邸に勤務するようになってからは、松陰の母・滝とは季節ごとに手紙をやり取りしており、それは県文書館に現存する。長井家と杉家は、明治になってそんな不思議な関係を続けるのである。正に恩讐の彼方と言えよう。(2021.12.25 記)